

鈴鹿ベイロータリークラブ

例会日 木曜日 18:30~19:30
例会場 鈴鹿サーキットホテル
事務局 〒510-0295 鈴鹿市稲生町7992
鈴鹿サーキットホテル
TEL 059(379)2484 FAX 059(379)2770



Rotary 

Be the
Inspiration

インスピレーションになろう



第1332回 例会報告 (2019年6月13日)

次年度活動方針

会長エレクト・次期幹事

■司会 / 川岸憲博 SAA ■ロータリーソング / 我等の生業

■会長挨拶 / 平野泰治 会長

子どもの虐待やいじめなど、子どもを巡る悲惨な事件の報道が相次いでいます。今後も、子どもを取り巻く社会情勢は、益々厳しさを増すことと思われます。子どもは「社会の宝物」と言うとおり、地域で子どもを守り・育てる仕組みづくりが、今まで以上に求められるようになっていきます。

今年は、国連で子どもの権利条約が採択されて30周年、日本がこれを批准して25周年に当たります。これを契機に将来にわたり、子どもを守り育てるために何が必要か、どうすれば良いのか、新たな環境整備に様々な取組が始まっています。

鈴鹿市でもこの4月から、三重県の北勢児童相談所から分離独立し、鈴鹿・亀山児童相談所が設置されました。これは、北勢地域の児童虐待件数等が、大幅に増加したことに対応するためのものです。

私たちロータリアンにとっては、人づくりは、大きな活動の柱です。皆さんで力を合わせ、地域での子どもの支援に、しっかりと貢献していきたいと思います。

■幹事報告 / 宮崎弘夫 幹事

- ・各務原 RC より例会回数変更のお知らせが届きました。現；毎週例会を新；2回/週
- ・熊野 RC より例会回数変更のお知らせが届きました。現；毎週例会を新；3回/週

■出席報告

例会日	会員数	出席者	欠席者	出席率
6月13日	13名	11名	2名	84.6%

2週間前の補正後出席率 13名中 9名 69.23%

■ニコボックス

谷田義弘……本日は次年度の会長方針を述べさせていただきます。一年間よろしくお願いいたします。

平野泰治……新しい年度に向けてさらにがんばりましょう。

川岸憲博……先週、休みました。申し訳ありません。

中野 強……谷田次期会長、本日は、よろしくお願いします。

宮崎弘夫……谷田会長エレクト様、来週はよろしくお願いいたします。

大泉博典……平野会長、宮崎幹事、一年間ごくろうさんでした。

磯部弘生……会長、幹事1年間ありがとうございました。又私事ですが、うれしいことがありました。少しカタの荷がありました！

中村 悟……先週は急に仕事の打合せが入り欠席して申し訳ございませんでした。

■例会 / 次年度活動方針 / 会長エレクト 谷田義弘

■基本方針

2019～2020年度 国際ロータリー マーク・マローニー会長は、「ロータリーは世界をつなぐ」をテーマに掲げました。ロータリーの礎である「つながり」、原点に立ち返って多方面にわたる「ひと」に限らず、地域社会や諸団体との「つながり」「結びつき」「友情」「ネットワーク」を通じて奉仕活動を可能にするのがロータリーだとしています。また、2019～2020年度 国際ロータリー 第2630地区 辻正敏ガバナーの掲げたテーマは「総天然色」です。「すべてのロータリアンが(総)、それぞれの空の下で(天)、しっかり思いを込めて行動し(然)、それぞれの色を醸し出す(色)」とされました。そして、ロータリーは「柔軟さを持ちながら、よりよい変化のために奉仕していく持続可能な組織」であるべきとしています。

そして、鈴鹿ベイロータリークラブは、会員に自らの職業を通じて社会に理想の奉仕をするという理念を実際に学ぶ機会のある場としていかなければなりません。ロータリーは、「中核的価値観」を親睦・高潔性・多様性・奉仕・リーダーシップと定義しました。この「中核的価値観」の実践と周知がロータリークラブに対する評価にもつながり、会員増強にも不可欠であると考えています。

■2018－2019年度 活動計画

- ・当クラブの未来を支え得るような入会候補者を推薦していく。
 - ・当クラブが続けてきた地域社会に貢献する活動を改善しながら継続していく。
- 2019-2020年度 活動計画 参照
- ・会員・理事会の意見を取り入れながら 昼間例会開催の試行を図る。
 - ・マス・メディアも有効に活用しつつ、当クラブ活動に対する広報活動を充実させる。

① 「第28回 鈴鹿ベイロータリー杯 ジュニア柔道大会」(仮称)

- 1). 中日新聞 2). CNS

② 鈴鹿市立白子小学校・鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校、各関係諸団体と連携した鼓ヶ浦海岸環境保全活動「羽衣並木復活大作戦(松の卒業記念植樹)」の実施

- 1). 中日新聞 2). CNS

③ 鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校での「出前職業講座」(仮称)への講師派遣

- 1). 中日新聞 2). 産経新聞 3). CNS

④ 鈴鹿サーキット F-1 グランプリ開催期間中における「友愛の広場」の開設

- 1). ロータリーの友 2). 『月信』

⑤グローバル グランツ活動計画(鈴鹿・亀山グループ主催)への参画

- 1).『ロータリーの友』 2).『月信』

⑥ポリオ撲滅運動への協力

- ・所属会員の優れた能力や資質を十分に発揮できる事業活動や例会の充実を図る。幅広く新会員を募るため 例会を昼の時間にも試行する

■ 2018－2019年度 事業計画

- ・「第28回 鈴鹿ベイロータリー杯 少年柔道大会」の開催
「少年柔道大会」→「ジュニア柔道大会」と名称の変更を提案します。
- ・鈴鹿市立白子小学校・鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校、各関係諸団体と連携した鼓ヶ浦海岸環境保全活動「羽衣並木復活大作戦(松の卒業記念植樹)」の実施
- ・鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校での「おじさん先生 出張講座」への講師派遣
「おじさん先生 出張講座」→「職業講話」と名称の変更を提案します。
- ・鈴鹿サーキット F-1 グランプリ開催期間中における「友愛の広場」の開設
- ・グローバル グランツ活動計画(鈴鹿・亀山グループ主幹)への参画
- ・ポリオ撲滅運動への参加

■ 会員増強の必要性和問題点

第2740地区 直前PDG、地区研修委員長 駒井英基 (佐賀南)

ここ数年、10年前ほどでは無いにしても全国のロータリークラブでの会員の高齢化と会員減少が見られます。何れの地区を見ても会員増強委員会のご努力で年度の途中では若干の増加を観ますが、年度末の6月末には、50人程度の退会が出てしまい、統計してみれば、現状維持か微増程度にとどまっている現状があります。

クラブ単位や地区全体としてもこの問題に真剣に取り組むように努力されているにもかかわらず、毎年あまり状態は変わりません。これはなぜでしょう。既存の会員は毎年必ず1つ年を取りますから、若い新会員の入会がなければ、平均年齢は毎年1つずつの高齢化は避けられません。また反面少し会員増強に無理があった場合、5年以内の退会が目立つのも事実です。毎年新しく若い会員を入れていくことはクラブの活性化に繋がり、避けては通れない課題です。それらの理由として、ロータリーの目的や真の魅力や基本理念が何かを知らないまま活動しているので、何らかの些細な事が退会理由であることも多いように思われます。

以前は、各クラブにロータリーの魅力を語ってくれた、クラブ長老がおられてロータリーの基本知識を教えて頂いたものですが、そのような炉辺会談も世代間の対話が減ってきている現在では、本来の意味での炉辺会談が行われているクラブも減少しているようです。それを補うようにRIは、DLP等を推奨して、各種研修セミナーを開催することが増えてきました。RLIなどの手法も取り入れられた地区もあり、それはそれでとても良いことではあるが、問題は地区の主催する各種研修セミナーに、新入会員全員が参加するわけでもなく、各クラブから代表の方が参加されるのが現状ではないでしょうか。それをそのまま各クラブで卓話していただいたりクラブでの研修会を行っていただければ、効果は上がるはずなのですが、そのようなことはセミナーに参加された方が、かなりの

ロータリー理解度が高い方でないと難しいようで、当地区では地区委員長を輩出しているクラブぐらいが、行っているのが現状ではないでしょうか。

また、地区委員長を卓話で招聘して卓話いただく熱心なクラブもあります。全てのクラブがこのような地道な努力をしていただけたら、5年経過後に新入会員の1/3が退会してしまう事は無くなるのではないかと、願っているのですが。

また、現在の団塊の世代の方は、日本ではクラブ会員の中心を占めておられることも多いようで、ここ数年は現在の会員増強もある程度の効果を上げられるのかもしれませんが。しかし、現実的にはそのような世代の方は同年齢の人口が年間 200 万人程度国内におられたのですが、今年の新成人は 100 万人を割ろうとしているのも現実です。その場合ロータリーの入会に適正な年齢となられる 15~20 年後には、勧誘する対象も半減するはずです。だからと言って、ロータリアンとしては、だれでも良いわけでもないので、ロータリーに適応できる人財を求めて、勧誘することは今の数倍の努力が必要となるはずですし、考え方も変えなくてはならないのでしょう。

日本だけでなく世界の先進国はどこでも同様の問題を抱えているので、RI も危惧しているわけで、若い会員を勧誘すべき方法を工夫しているのでしょう。ローターアクターを会員に迎えることや、30 歳代の会員の会費を半減したりすることを RI は近く規定審議委員会に提案する予定があるようです。また、ロータリーの魅力を会員ばかりでなく、世界の人々に認知していただき、無理に勧誘しなくても、若い方が自分から入会したくなる組織にしたい理想も持っておられるようです。しかし、私達日本のロータリアンには、そのまま素直に理解できにくい面があります。

長くロータリーを繁栄に導いていただいた先人のロータリアンが築いてこられた、基本理念をしっかりと守り育てていかななくては、どこにでもあるただのボランティア団体となってしまいます。基本理念を守り育てることは、ロータリーの目的であると定款に明記してあります。要するにロータリーを育んできた誇りを忘れてはいけません。

人間には、良い人財と交わりを持ち、自らも良い影響を受け、ロータリアンとして誇りをもって仕事に取り組み、自分を取り巻く取引先からの信頼を得て家族、従業員を幸せに導き、地域社会や世のために役立ちたいという本能があります。それらの意味でロータリーは、それらの全てが満たされる素晴らしいシステムとなっています。たとえ自分のクラブがブランドクラブではなく、小さなクラブであったとしても、ロータリーの仲間は一生続くのですから、自分の知り得ない多大な情報を与えてくれますし、人生の道場のようにも捉えることができます。

これに、同じ地域のグループ内のクラブとの交流も有るでしょうし、地区として考えるならもっと幅も広がりますし、内容も充実いたします。よって、会員増強は、2~3 年程度の短期で物を考えるのではなく、5年以上の長期の計画性に基づいてとらえて頂きたいものです。会員拡大でなく、会員増強なのですから、ただ増やすばかりでなく、会員をロータリアンとして育てて、会員の皆さんと共に自分のクラブを活性化して、一生を振り返り、自分がロータリークラブに入っていてよかったと思えるように育てていけるのなら、会員数の多少の増減は、あまり問題は無いと思えます。しかし、常に新しい会員を迎える姿勢を持ちつつ、基本理念を共有できる方なら会員の多様性を認めてあげることが大切なのではとも思っております。

ロータリーの源流「ロータリアンの広場」より転載